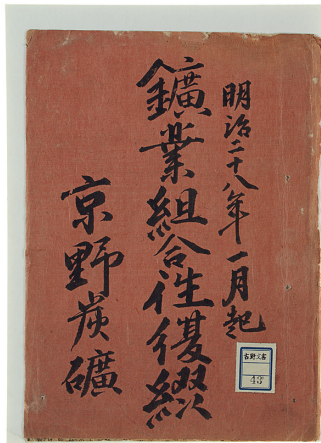
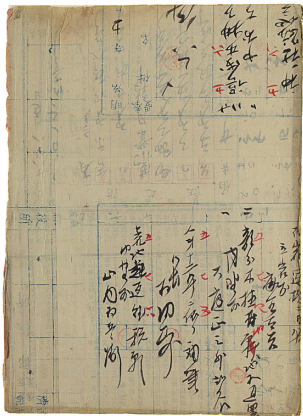






鑛業組合賦課金標準一覽表

[illegible]

右之通明治廿八年四月一日ヨリ實施候也

筑豐石炭鑛業組合事務所

明治廿八年四月廿三日通商總會決議
出席人

外	大	大	金	白	金	忠	赤	大	野
郎	郎	郎	剛	井	田	田	田	田	成
坑	坑	坑	坑	坑	坑	坑	坑	坑	長
柳	青	豆	久	杉	箇	杉	島	安	安
木	木	田	保	井	井	浦	村	川	達
弘	鉄	爲	太	木	省	茂	一	敬	仁
道	二	太	郎	惠	晋	三	郎	進	遊

池	上	名	瑞	馬	第	順	高	堀	苗	肥	第	吉
尻	野	前	德	堀	二	末	江	川	代	春	新	田
坑	坑	坑	坑	坑	坑	坑	坑	坑	坑	坑	坑	坑
中	平	中	佐	出	後	石	橋	金	戸	原	吉	船
島	井	村	々	口	藤	橋	角	子	田	芳	田	津
典	福	郎	木	小	健	十	千	長	俊	太	成	治
三	之	三	加	三	作	郎	代	十	郎	郎	章	平

高 跡 坑 松 本 池
本 洞 坑 許 斐 藤 介

- 一 安達總長議長席ニ就カシ左ノ各項ヲ決議ス
- 一 鐵業條例改正運動會通足其他トシテ來五月一日ヨリ出炭壹萬斤ニ付金壹錢宛本年十二月迄徴收スルコト
- 一 前田正名君來縣ニ對シ九州石炭業者團體一手販賣ノ義ハ同意シ難キモ團體ノ契約ヲ厚ラスル主旨ヲ以テ來縣ノ義ヲ照會スルコト
- 一 本年度豫算ハ則量豫算後ノ通リ決定スルコト
- 一 江川派沼所家屋建増ノコト但其實用凡六拾圓ト見積リ廿七年度水運費繰越金ヨリ流用スルコト
- 一 堀川登船取締所新築ノ事但其實用凡百圓ト見積リ本年度

二

- 一 豫算渡砂夫給ノ内減額スヘキモノアルヲ以テ該減額金ヲ以テ之ニ充テラルコト
- 一 傳染病豫防會トシテ出炭壹萬斤ニ付金壹錢宛來五月一日ヨリ向六ヶ月間徴收スルコト但該金支出方法等ハ常議員ニ委任スルコト
- 一 遠賀郡西川筋ニ本年三月廿五日常議員會決議ノ通り常組合派沼所ヲ設置スルコト
- 一 堀川内通船取締ノ件ハ堀川部分會ノ決議ヲ是認シ取締人ノ任命ハ本部ニ於テ文記スルコト
- 一 組合役員ノ賞罰ヲ此際常議員ニ一任シ執行セシムルコト
- 一 昨年九月十七日ノ決議ニ係ル專任總長ヲ置クコトヲ見合モ幹事ト收メ其撰定ヲ常議員ニ依頼スルコト
- 一 組合家屋建繕費其他預ケ金ハ安全コレヲ相當利子ヲ付セ

シムル様其預ク所其方法ハ之ヲ常議員ニ一任シ名譽會計
審査役ヲ撰定依弼セシムルコト

一 本日額取徴之違君續業條例改正運動ノ請求ヲ安達應其過
日京都ニ於テ開會シタル全國石炭業者大會ニ出席ノ件ヲ
報導セラレタリ

右

明治廿八年四月廿五日

筑豊礦業組合事務所

各坑主御中



明治廿八年度

筑豊石炭礦業組合收支豫算書

(明治廿八年四月廿三日通常總會ノ決議ニ依ル)

本部費收入豫算

一金貳千六百圓

租出農地 高貳拾六畝 萬斤ト見積ノ壹萬斤ニ付金壹錢ノ
、徴收

本部費支出豫算

一金貳千六百圓

内 譯

一金貳千壹百圓

本
部
費

內 金七百八圓

小 金貳百四拾圓

金百八拾圓

金百〇八圓

金九拾六圓

金八拾四圓

金六拾圓

金拾圓

金八拾五圓

役具給料

書記月給貳拾圓壹人

全月給拾五圓壹人

全月給九圓壹人

全月給八圓壹人

全月給七圓壹人

小使給料

有月給五圓壹人

雇人給料

信宗料

但一十月金八圓五拾錢ノ、
十日分

金九拾六圓

金貳百貳拾六圓

金百拾圓

金七拾圓

金百參拾圓

金百五拾圓

金壹圓

金五拾錢

金拾六圓五拾錢

金拾七圓

金四圓

郵便電信料

旅費

印刷及購報告費

備品費

消耗品費

會議並文書費

爲換手數料

兩替手數料

宿直膳料

諸雜費

臨時費

一金五百圓

豫信費

水運費收入豫算

一金壹萬參百貳拾五圓

内 譯

金六千八百貳拾五圓

但本項金額ハ總興組合ノ運賃費及支那費金額並ニ

除償金トシテ取入スヘキ外

内

金六千參百圓

但本項川船出賃高推定五千兩斤ト見積リ壹萬斤ニ
付金六圓宛徴收

金五百貳拾五圓

紅廻河以良寄參拾五千高斤ト見致、壹萬斤ニ付金

壹萬五厘宛銀收

金參千五百圓

便本行ハ誤差所費及渡砂費ノ折半額ニシテ銀業組合

ニテ收入スベキ分

全 支出豫算

一金壹萬參百貳拾五圓

内 譯

一金千四百七拾七圓

内

金九百參拾六圓

小 譯

金四百貳拾圓

金百五拾六圓

金參百圓

金六拾圓

金貳拾四圓

金六拾圓

金貳拾四圓

支 部 費

役員 給料

支部長月給參拾五圓壹人

書記月給拾圓全半支參圓壹人

定例費取掛月給

田舎町會入八萬圓八千七百圓人

忠節會入拾

住五圓給壹人

雇五圓給壹人

雇 人 料

借 家 料

郵便 電信 料



金百貳拾圓

族費

金五拾圓

印刷及諸報告費

金拾貳圓

備品費

金四拾八圓

消耗品費

金參拾六圓

會議費

金拾貳圓

飛脚及人夫賃

金五圓

臨時費

金百五拾圓

臨時費

一金四百五拾貳圓參拾四錢八厘

雜費

一金八千參百九拾五圓六拾五錢貳厘

礦帶費

內

金千參百九拾五圓六拾五錢貳厘

礦業組合補助金

一金八千參百九拾五圓六拾五錢貳厘

內

內

金五百八圓貳拾五錢

吉田礦高所費

內

金參百四拾八圓

役員給料

金百貳拾圓

書記月給給與費人

金貳百貳拾八圓

雜目月給
但北邊神受人六圓餘人

信家料

金拾貳圓

郵便電信料

金參拾六圓

旅費

金八圓

雜品費

金貳拾四圓

消耗品費

金四拾八圓

當殘薪人夫賃

金拾圓

諸雜費

金拾八圓貳拾五錢

宿直薪

金貳百四拾五圓貳拾五錢

江川派出所費

內
金百六拾八圓

小計

金九拾六圓

金七拾貳圓

金六圓

薪月給八圓餘人
雜目月給六圓餘人

金貳圓

宅地料

金貳拾四圓

郵便電信料

金八圓

旅費

金拾貳圓

消耗品費

金拾八圓貳拾五錢

宿直薪

金貳圓

殘薪及人夫賃

金五圓

金九拾六圓

內

金八拾四圓

小部

金八拾四圓

金壹圓五拾錢

金拾圓五拾錢

金貳百貳拾七圓貳拾五錢

內

金百八拾圓

諸雜費

直方派出所費

役員給料

舟車人給

賃地料

消耗品費

壽命派出所費

役員給料

小部

金九拾六圓

金八拾四圓

金參圓六拾錢

金貳圓四拾錢

金六圓

金參圓

金拾貳圓

金拾八圓貳拾五錢

金貳圓

書記月參八圓壹人

舟車人給

賃地料

郵便電信料

雜費

備品費

消耗品費

留直師料

飛脚及人夫賃

金四拾八圓參拾五錢

內

金參拾圓

金壹圓

金五圓

金拾圓

金壹圓

金壹圓參拾五錢

金參百拾八圓

內

金參百圓

小竹課出所費

深出所新築費

郵便電信料

備品費

消耗品費

飛脚及人夫賃

諸雜費

各組船取給所費

役員給料

小計

金百四拾四圓

金參拾圓

金參拾圓

金元拾六圓

金壹圓

金五圓

金拾貳圓

金六千九百五拾貳圓五拾五錢貳厘

金壹圓參拾五錢

金參百拾八圓

金參百圓

金元拾六圓

金壹圓

金五圓

金拾貳圓

金六千九百五拾貳圓五拾五錢貳厘

内 金六百六拾四圓

監督費

内 金六百貳拾四圓

金四拾圓

監督員給料
其給料四人全半金多額
監費

金多百八拾圓五拾五錢貳厘

諸願巡查費

内

金貳百八拾貳圓九拾八錢四厘

成規上納金

小

金百四拾壹圓四拾九錢貳厘
金百四拾壹圓四拾九錢貳厘

中 薪
四 尾

金參拾圓

出張宿泊料

金參圓八拾錢

折尾宅地料

金參拾參圓七拾六錢八厘

中間家屋増築費

金參拾圓

諸 薪 費

金五千百七拾八圓

渡 砂 夫 給

内

金千貳百六拾圓

大長十圓ノモノ貳十八
九ヶ月分

金貳千八百八圓

平大六圓ノ番五拾貳人

金參百參拾圓

夏期三ヶ月分共長五圓

金七百八拾圓

五拾錢ノ者貳拾人
平大五圓ノ者五拾貳人

金貳百圓

瀬 寄 標 費

金五拾圓
金參拾圓
金四十五拾圓
內
金參百五拾圓
金百圓

諸 械 費
假 航 路 費
人 夫 費
諸 雜 費



一金貳錢也

內 譯

金壹錢

上 京 費

徵收期限本年十二月迄

金壹錢

傳樂利發防費

徵收期限本年十月迄

右明治廿八年四月廿三日通常總會ノ決議ニ據リ同年四月一日ヨリ實施ノ礦業組合賦課金標準一覽表規定額ノ外五郡水陸兩運炭共廿八年五月一日ヨリ追加徵收致候間此段及御通報候也

明治廿八年四月廿九日

筑豊石炭礦業組合事務所



本月十九日水運部分會ニ於テ左之議致決議候條
此段及御通知候也

明治廿八年五月廿一日

筑豐石炭坑業組合

直方支部

出席員

豐國坑	梅崎忠吉	木洞坑	許斐國松
新平坑	宮崎信臣	上野坑	平井福之助
苗代坑	勢田政次郎	大辻坑	豆田爲太郎
肥春坑	原田芳太郎	椿一大隈坑	青木鐵次郎
金田坑	内堀鈴平	金剛坑	渡部寛治
黒川坑	田中源十		

決議條項

一 鑛川工事修繕ニ關シ運賃郡役所へ納付シタル

右義金支出方法ノ件

右ハ組合準備金ヲ以テ支出シ不足ノ分ハ更ニ

徴収スルニ決ス

一 今因運賃郡役所ノ設置ニ係ル鑛川砂揚ケ工事

ニ關スル件

右ハ運場一致ヲ決定ノ次第アレハ暫ク之

ヲ公ニセサルニ決議セラルヲ委許了知

セラル度向ハ當支部ニ就テ了知セラル度レ

發第一九六号

拜啓陳ハ客月廿五日常議員會ノ決議ニ依リ來ル七月十一日
正午十二時若松港夜濱綠屋ニ於テ臨時總會及水運部分會相
催シ候右ニ付規約第卅五條中出席員十名ニ達シ候得ハ開會
決議ニ相成候間左ノ如キ重大事件ヲ少數ニ決シ候事遺憾ノ
至且各坑ノ利害ニ大關係有之事ニ付萬障御緩合御來會有之
度此段及御開會候也

議案

一 門司港特別町村稅ニ對シ廢止運動ノ件

本年五月門司町長ノ公布シタル門司港特別町村稅即チ該
港ヨリ輸出スル石灰壹萬斤ニ付金壹錢ヲ課スルコトハ當
業者ノ利害ニ關スル大ナルヲ以テ其廢止運動ニ付協議ス
ルコト

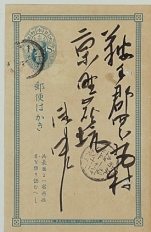
一 門司若松國港衛生會創立贊助之件

一本件ハ若松港有志總代的野中全及平岡浩太郎君ヨリ常
議員會ニ相談セラレ該會ニ於テハ賛成スヘキモノト認
メタルヲ以テ之ヲ臨時總會ニ諮ルコト

二 該會ノ目的タル港ヲ配付シ且該港ニ配載セシメ如ク下
水疏通工事及水運面費ノ爲メ苗木植付等其費多ク之ヲ
成就セシムルニハ數年ヲ要スル大工事ナレヲ以テ其目
的ヲ達スヘキ方法ヲ講スルコト

一 水運部分總會ニ於テ決議ノ廿七年度準備金ノ流用ヲ取消
ス件

本件ハ去ル五月十九日ノ水運部分總會ニ於テ堀川工事ニ
付郡役所寄付金及堀川砂掘費七百二拾五四廿七年度準備
金ヲ以テ之ニ充ツルコトニ決議セリ然ルニ該準備金タル



郵便はがき

明治三十二年
九月一日

[illegible]

經費支拂上融通ヲ四倍ナラシムルノ目的ヲ以テ之ヲ徵収
シタルモノニテ一時添ク之ヲ支出スルトキハ常ニ多額ノ
支出ヲ要スル水運費ノ組合上大ニ困難ヲ生シ隨テ組合全
休ノ經濟上ニ影響スル大ナルヲ以テ右部分會ノ決議ヲ取
消シ缺嘗付ハ更ニ之ヲ徵収スルノ方法ヲ協議スルコト

一 常議員五名ヲ七名ニ増員ノ件

本件ハ石炭業ノ盛大ナルニ隨ヒ組合事務益々多端ニ起リ
隨テ協議實行スヘキ事多ク五名ノ常議員ニテハ少ナキニ
付増員シテ七名ト爲シ以テ其道徳ヲカンコトナスルヲ

右

明治廿八年七月一日

各坑主御中

筑豊炭業組合事務所



拜啓陳者去月十一日當議員會ノ決議ニ從ニ來廿五日正午十二時若松港綠屋ニ於テ開會致候右ニ付規約貳拾五條中出席員十名ニ達セ候得者開會決議ニ相成候間左ノ如キ重大事件ヲ少數ニ決セ候事遺憾ノ至且ツ各就ノ利害ニ大關係有之事ニ付是非御提合御來會有之度及御開會候也

但レ徵收金増額ニ關係有之義ニ付御意見書并ニ御出席無之時ハ御讃成ト見做セ候事

一 門司藩特別町村稅廢止願運動之件

一 門司若松兩港衛生會創立讚助ノ件

一 雇人諸職工取締其他諸貨繰ノ件

一 部分總會ニ於テ決議ノ廿七年度積立金流用ヲ取消ス件

一 新築工事報告其他重要ノ件

明治廿八年六月十六日

若松藩

筑豊五郡鑛業組合事務

坑主御中



門
司
松
若
兩
港
衛
生
會
創
立
主
旨
書

兩港衛生會創立主旨書

我九州の現今や日本帝國が戰勝膨脹の結果として俄かに帝國の中心
點たるに至れり則ち九州は其實力に於て又當に其中心點たるべき
の覺悟を有するべからず而して今茲に九州の率先者なる我筑豐人士た
るものゝ先づ當るつて決行すべき目下最急の一大事件を生じたり語
ふ之を左に闡陳せん

抑々門司港は九州人士の上下往來すべき門戸にして九州貨物の出入
口たり殊に若松港と門司港とは専ら我筑豐石炭の輸出場として恰も
食物の咽喉に於けると同一般の關係を有す

今若し門司港と若松港とは於て惡疫の流行等ありとせんか筑豐の良
炭は幾多幾百萬斤の採出額あるも空しく阿波に堆積して内外船舶の
輸出入を妨げ販路忽ちにして塞り其損害の及ぶ所各坑主各石炭問屋諸
業者等實に測られざらんとす殊に九州筑豐阿波道の如き門司若松兩
築港會社の如き其地直接に間接に苟も筑豐の間に利害を有するもの



は其影響を免れざるは勿論若し延びて年々歳々に發生するものとせば其損害の夥たしきと蓋し淺計なるを知るべからず

方今外國船舶の門司港に來らざる所以のものは戰として惡疫の發生したるに由り外國船舶として一たび門司港に接陸するときは陸交檢疫等の爲めに數日を費し船主の損耗少からざるを以て從來香港より來りし船舶は凡て其航路を轉じて樂属に至り同地方より米穀を搭載して北支那(支那)に航するに至れりと云ふ是れ目下門司港石炭輸出減少の一大原因たるなり

茲に兩港石炭輸出の實況に就き平時と目下惡疫發生以來に於ける増減の差を示すと左の如し

注意 左の表中、兩港間と門司港間の分を列ねたるは全く數額を異にしそのみして其實は門司港より輸出したるものなり
右の表は漸より増大するを免れざるを以て細目の点に至りては減額は差降なるを假し然しと雖も大體の數額に於ては甚だ相離るるを假す

○若松港・輸出の分

總計噸數 五二、六七四、七五二

(同前廿二年より廿七年に於る)

内 詳	和蘭直轄の分	門司港へ同港の分
廿三年度	六八、八八〇、三三〇	九八、二八九、六六
廿四年度	七三、一七四、八	一七五、五五二、
廿五年度	七八、〇五五、二	二六六、〇三六、八
廿六年度	八二、九〇八、六	三八八、二五八、四
廿七年度	一、四四七、九七八	五七六、五二五、六
合 計	四一七、〇九八、四	一、五〇四、六三三、六

右表の如く年々著しく輸出額を増加し廿四年度には前年度より十二万〇六百四十五噸廿五年度には前年度より十四万〇三百五十四噸廿六年度には又十五万九千三百三十三噸廿七年度は尙ほ五十一万七千七百七十九噸を増加し來れり此の如く長足の進行を以て年々歳々増額となすは鐵道の發達上海に買すべき所なるも若し惡疫

發生の根柢を豫防する事なく一旦其威力を逞ふるに當りては恐らくの亦絶大の惡機に陥らんとす是れ最も戒むべき事にあらざるや

(續前二年度と七七年度並べ)

門司港輸出の分

○廿三年度

總計噸數

二二、八六二

内

六六三 若松より同港分

輸出炭

九〇九三三

馬國税關の分

七三、四七

同港炭

一五、五三三

八六、五七

合

一〇六、八四五

一六〇、二七

總計噸數

○廿四年度

二二、九四四

内

五三三 若松より同港分

輸出炭

一三、七七一

馬國税關の分

四三、二七

同港炭

一三、五六一

四五、八三三

合

二七、二八二

九九、一〇三

總計噸數

○廿五年度

二二、二五四

内

五三三 若松より同港分

輸出炭

二〇九、〇六

馬國税關の分

一四、九六一

同港炭

四、一〇〇

一、一四

合

二一四、一六〇

四九、七四五

輸出炭

二〇九、〇六

六四、八八〇

同港炭

四、一〇〇

一、一四

總計噸數

○廿六年度

四八、五二九八

内

五三三 若松より同港分

輸出炭

二一八、〇〇

馬國税關の分

一六、〇〇

同港炭

二一八、〇〇

一六、〇〇

同 費 費	三八二二五	、 、 、 、 、
總 用 費	七四三三四	四七五七七
合 計	四二一六一	六四〇二七
總計噸數	〇廿七年度 七二〇、六五七	內 六六六、 四三三、 九萬五、 八千餘噸分
内 詳	門司税關の分	馬場税關の分
輸出税	二八二四一五	二〇八、五〇二
船務費	五六〇〇三	五二、一八
船用費	四九六〇一	三三、二二〇
合 計	三八八〇二七	

以上の如く門司に於ても平時〇年一年より輸出額を増加し廿四年度には九万六千五百九十一噸廿五年度には十一万三千〇九十三噸廿六年度には十五万二千七百五十二噸廿七年度には二十三万五千三百三十九噸を増加し素来より假りに廿七年度の輸出額を以て廿三

年度と比較すれば殆ど六倍を増加せり

右の例に依りて之れを推すべきは本年度輸出は昨年度に比して廿三万五千三百三十九噸を増加するものとし之れは昨年度七十二万〇六百五十七噸を合せば九十五万五千九百九十六噸に及ぶべきの比例を以て本年一月より四月に至る四ヶ月分即ち其三分の一として三十一万八千六百六十五噸に達すべき筈なるも現時の實數の之れに反じて其數僅かに廿三万三千〇十四噸たるに過ぎる之を昨年度三分の一即ち廿四万〇二百十九噸に比すれば七千二百〇五噸の減少にして若し今日以後假りに此四ヶ月間の比例を以て進行するものせば本年度は六十九万九千〇四十二噸にして止まり昨年度七十二万〇六百五十七噸に比すれば實に二万六千六百十五噸の減少を來し之れを代價に積算すれば二四四、八万六千四百六十圓の減額なり且つ若し此列拉發生の全減するにあらざれば其損害たる亦何れの處までも達すべきや未だ豫知すべからざるものあり就豐各坑

主及び之れに關係ある諸港宜しく大に覺悟する所なくんはあるべからず如ち本年度三分一の輸出高は左の如し

○廿八年度一月より四月に至る輸出高
總計噸數 三三〇、二四

内

門司税關の分

高田税關の分

一月

三二、〇六

三六、七〇

二月

三二、七六

三二、六六

三月

一九、七八

四三、〇〇

四月

四、八八

四、八八

合

一四、八八

一四、八八

諸港が知らるゝ如く去る三月八日門司港成列拉發生以來外國船の入港漸く減じ且つ日清平和假條締結の結果により御用船の入港も亦頗る減少したるが爲め輸出著しく減少して茲に門司港頭貯蔵するもの日一日より増加し目下其數大凡六萬噸餘の多きに達

し其他各島嶼干貨貯蔵の貯蔵場は勿論未だ計つて石炭貯蔵の事例なき巖波島等にも陸上げたり是等各所の貯蔵凡そ三萬噸餘と尚ほ若松戸等には貯蔵せる四萬噸餘とを合算するときは其數無慮二十三萬噸餘の巨額とせらるゝ今假に之を一噸金圓と見積らざれば其代價は殆んど壹百萬圓の多きに達せんとす而して之によつて生ずる所の損害たる急ぎ先づ各坑主と各開墾等の恐慌を來すべきは論を俟たせしめて遂に門司若松等につける開墾商業の恐慌となり九興岡鐵道の如きも亦直に其影響を被むるは必然にして若し今后遂に恐慌を全減するにあらざれば其恐慌たる如何なる慘狀を極むるやも知るべからず今左に廿六年度より本年度に至る三年間門司若松岡港に發生したる恐慌患者表を掲げて之を示さん

門司港、新、患者表

○廿六年度

陽室赤痢 三拾六人

金治三十一人

丙午二十六人

[illegible][illegible]

吾人筑甕の士にして即ち門司若しくは大關係を有する諸人にして
大不幸此の大恐慌とを永遠に避けんと欲せば須く此兩港に於ける惡
疫發生の根源を掃蕩して又再び發せしめざるを努むべし而して今
此兩港に於ける惡疫發生の根源を探究すれば蓋し専ら下水の不潔と
飲料水の不良とに起因せしべしち果して然らば此兩港をして未
く惡疫の流行を免れしめんは宜く是水排泄の工事を起すべく
飲料水の不良との工事を起すべしとて水原調査の爲め之を排泄の植
宜くとも併せ起さるべからず譬て我内務省より獨逸へ派遣せられ
たる石黑軍醫總監に對し全國有名な醫學博士コッホ氏が指示せられ
たる日本虎列拉病機微方策の一節を掲げて之れを誦せん

日本虎列拉撲滅力策

一 關津堀及都府長崎神戶横瀬東京等をして不慮の地となすこと其法は第一着に舊長の水を給用すること第二着に適當なる法を設けて諸澤瀉物下水等を云ふを排除すること從來開放の井水

及河水を仕用する弊習を一洗すること

今コッソリ氏の意見を規限して吾人が衛生の目的を達せんと欲せんとす。今工事と下水工事とは一日も遅かせにすべからず況んや防疫の禁に中りて此兩節に大關係あり且つ其原動力たる各業主の如き籌策組に於ける如き九州筑前兩鐵道の如き副屋宿屋の如き宜しく率先此兩節に於ける防疫防虫の事業を起さるべからず是れ即ち吾人實業人士が奮るべし先づ決行すべき目下急務の一大事件にあらざるや是れ門司若松福岡淺瀬衛生會堂なるもの一日も遅かに創立せざらざる所以なり其の如く諸君此會に賛同して直ちに左の項目を議定せられんことを

第一項 門司若松に於ける水道工事、下水工事并に杉林植栽事業を起すこと

第二項 右の目的を達する爲め門司若松に關係ある財産は會議の上資金募集の方策を研究すべきこと

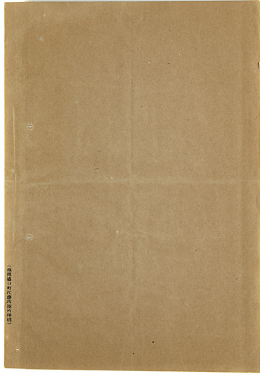


第三項 右方策確定の上は直ちに委員を選舉し充分の調査を遂
げ速かに其工事に着手し漸次完成を期すること

昭和十八年五月

四

附 兩港衛生會創立發起人



(此書係日本國會圖書館藏)

明治廿八年七月十一日臨時總會決議

出席員

總長 長安達仁造
歸田 統大木真直
金田 坑箇井會吾
臼井 坑杉本惠
忍原 坑齊藤正吉
日尾 坑吉岡親全
高江 坑橋口善千代
新干 坑宮崎信臣
金剛 坑有田信有
大ノ浦 坑後藤健作
西川 坑義生代領藤孫三郎

第一大隈 坑青木鉄次郎
大辻 坑豆田爲太郎
瑞穂 坑佐々木加太郎
赤池 坑安川敬一郎
高雄 坑松本潜
御徳 坑堀三太郎
第二新干 坑吉田成章
名前 坑平田作次郎

決議

一 門司港特別町村税ニ對スル増止運動ノ件

本件ニ關スル委員ハ常議員ニ托スルコト而シテ平岡浩太郎安川敬一郎安達仁造箇井會吾君ヲ門司町長及福岡

縣廳ニ對スル交渉委員トシ其交渉ノ結果ニ由リ上京運動スル等ノ場合ニ立至ルトヤハ更ニ臨時總會ヲ開キ協議スルヲ

一 門司若松兩港衛生會創立贊助ノ件

本件ハ重大ノ工事ナルノコナラス大慘ノ設計書ニ未ダ確定セザルヲ以テ充分調査ノ上更ニ臨時總會ヲ開キ協議スルヲ

一 水運部分總會ニ於テ決議ノ件
於七年度準備金ノ流用ヲ取消ス件

本件ハ掘川工事ニ付郡役所寄付金及堀川砂掘費合計七百廿五圓ニ充ツル迄來八月一日ヨリ水運送炭壹万斤ニ付金壹錢宛課スルヲ

一 常議員増員ノ件
八田川採炭會社ヨリ一名及大ノ浦堤ヨリ

後藤健作氏ヲ推擧スルヲ

右

注意

昨日ノ水運部分會ニ於テ左ノ通り決議相成候間積荷主任者へ無誤御通知被成下度候

水運部分會決議

本會ハ臨時總會ニ於テ本會ニ種ラタルモノナレハ出席員ハ鐵道送炭者ヲ除クノ外同一ナリ

一 荷額制限取締ノ件

本件ハ從來ノ荷額制限取締方違來緩漫ニ流レ不都合不
少ニ付來々八月一日ヨリ右取締方ヲ開始シ若シ規定ノ
額荷ヲ超過シ爲メニ通盤上差支ヲ生スルトキハ用捨ナ
ク荷上ヲ候間其旨各坑主ヨリ積場主任者ヘ通知スルコ
ト

右

明治廿八年七月十二日

筑豊石炭鑛業組合事務所



各坑主御中



表覽一準標金課賦合組業鑛

[illegible]

右之通明治廿八年八月一日ニ實施候也

筑豐石炭鑛業組合事務所

粉所

發第三〇六號

并晉劉琨之通綏乎。郡下境村新乎。炭坑加藤仁入耶氏。
屈出有之事。實取調候處。備人ノ不懌合ノ相認候間。左ノ者
共自燃備使方中込候共。御採用無之樣致度。此段至急及仰
相會候也。

筑豐石炭鑛業組合事務所

明治廿八年八月八日

各坑主御申

飛豐石炭
務所
坑業組合
事務所

左之者共一同不都合之康有之解雇候儀各境ニ於テ御採用
無之様致度此段及御届候也

新 手 炭 坑

明治十八年七月廿七日

筑豊石炭礦業組合事務所御中

佐賀縣佐賀市村木町平民

大 夫 長 江 藤 郷 次

嘉永四年生

長崎縣西彼杵郡長崎市船大工町平民

權 方 石 井 光 太 郎

文久二年生

佐賀縣美根郡三河村大字市竹平民

大 夫 藤 内 源 六

福岡縣三池郡大牟田町大字船橋平民

大 夫 川 村 半 次 郎

慶應二年九月生

山口縣馬毛郡田布施村波野平民

オシノ 方 江 村 信 甫

明治二年十月生

福岡縣三浦郡大牟田町大字下里平民

大 夫 藤 井 正 太 郎

安政三年三月生

佐賀縣豐父郡北茂安村平民

鍛 治 諸 永 儀 兵 衛

文久三年生

佐賀縣佐賀市村木町士族

ゴレン方 福 地 澤 七

万延元年八月生

熊本縣玉名郡平井村大字土井手平民

火 夫 井 上 市 次

明治二年生

福岡縣田川郡座田村大字上戸隈平民

ゴレン方 百 田 源 大

文久三年生

大分縣田國崎郡上荒玉村大字岩屋平民

ゴレン方 逆 藤 實 次 郎

慶應三年生

大分縣田國東郡玉津村大字新榮平民

ゴレン方 逆 藤 富 士 吉

明治三年生

福岡縣二道郡遠見村大字末屋平民

火夫 小 頭 松 田 茂 作

安政三年二月生

見習 鍛 冶 松 田 光 造

明治二年二月生

福岡縣和厚郡堅粕村平民

ゴレン火夫 梶 口 鑑 吉

安政五年生

佐賀縣佐賀市東魚町平民

ゴレン方 小 頭 吉 村 直 市

慶應二年生

佐賀縣養父北茂安村平民

番 子 官 原 末 吉

明治十四年生

山口縣津野郡小幡村大字小幡平民

ボレン方 石 田 卯 作

元治元年六月生

佐賀縣佐賀市牛島町平民

飯 治 中 島 龜 三 郎

慶應二年生

佐賀縣佐賀市材木町士族

江 朝 榮 大 郎

明治元年生

オライ盤日習 江 顯 伊 吉

明治四年二月生

オレンプ 江 顯 秀 市

明治九年十一月生

福岡縣早良郡西新町士族

ベンブ ニノ宮 次 郎

明治元年生

福岡縣鞍手郡下埴村平民

器城長心得 安 永 豐 吉

安政五年生

飯治見習 栗 原 山 太 郎

明治十四年生

火 夫 田 丸 松 藏

火 夫 原 田 卯 之 吉

タワイ盤 佳 吉 六 郎

ギン
ア
方
タ
ライ
題
シ

江 和
口 田
勇 安
太 太
郎 郎



發給貳貳四號

拜啓陳ハ去ル四月廿三日開會ノ通常總會ニ於テ傳染病豫
防費トシテ本年五月ヨリ向六ヶ月間出炭壹萬斤ニ付金壹
錢宛徴取ノ決議(去五月ヨリ當八月迄凡金八百圓餘徴取ノ
見込)致候末常議員會ノ決議ニ由リ門司町ニ金六百圓若松
町ニ金八百圓寄付致候處頃日虎病益蔓延スルニ隨ヒ門司
町其他諸船着岸各地ヨリ當組合ニ對レ尙豫防費寄付ノ相
談頻繁ニ及ビ候御承知ノ通リ該病ノ蔓延ハ特ニ鐵業上ニ
關セシ大ナル以テ可及的其豫防撲滅ニ盡力スルハ當組
合ノ已ムヲ得タル義務ナリト存シ來九月一日ヨリ本年十
二月卅一日迄出炭壹萬斤ニ付金貳錢宛徴取金凡六百圓餘
ノ見込前凡通計貳千四百圓餘ヲ徴収シ以テ目下ノ急務ニ
應レ度候就テハ臨時總會ヲ開キ御協議申上ル含ニ候得共

事情切迫且時節御會合如何ト存シ午略儀以書面御意見
相伺フ事ニ致候御覽否至急御通知被下度者來廿六日迄ニ
何等ノ御回答無之トキハ本文御快成ト見做シ候條此段至
急御照會申上候勿々 敬白

總長 安達 仁 道

明治廿八年八月卅一日

各坑主御中





郵便はかり

大正七年八月廿一日

東京府立

五ノ



神奈川府立

拜啓陳者下掲儀今般筑豊礦業組合之聘用
サ辱フレ直方支部長之任爲ニ致從事候歟
ヲハ野來何ニホ御忌介相成可申語事宣歟
御依頼仕候此段乍略儀及御被露候也

小西恭助

明治廿八年五月二十日



拜啓陳者左ノ件々ニ付主急御協議ヲ要レ候ニ付來ル十九日
當支番ニ於テ臨時水運總會相問キ候條同日午前十時張龜出
席相成段若レ自身御出席難相成向ハ相當代人御差出相成度
此段及照付候也

追テ當日御欠席ノ向ハ決斷ケ終ニ於テ御異存無之モノト

見做候條爲公此段申渡候也

一堀川工事延期ニ關スル支出金徴収方ノ件

一同今回發揚ケ工事ノ件

明治廿八年五月十五日 筑豊礦業組

直方支分部

筑豊礦業組

直方支分部



體運賃直下方商議ノ爲メ水運部臨時
總會開設請求ノ向セ有之候。付來ル
十六日直方吾妻屋。於テ開會候條同
日正午無延延御出席相成度此段及御
照會候也

筑豊礦業組合直方支部

明治二十八年七月十二日

明治廿八年九月三十日水運部臨時總會決議

出席員

第二新干坑

上目尾坑

大之浦坑

頃水坑

金田坑

新川坑

金谷坑

赤池坑

高江坑

白土 覺

後藤 健作

石橋 角十

内堀 吉平

山内 太郎

島津 幸五郎

近藤 寛太郎

仙崎 安雄

鎌 坑

庄司 坑

豐國 坑

第一大隈坑

苗代 坑

大辻 坑

勝津 友吉

頭山 次郎

梅崎 忠吉

青木 鉄次郎

竹田 司

大西 晟

一 輕運賃ノ件

船運本用第ハ本年七月決議現行運賃額ヨリ
各所共五拾錢宛引下ケ相用第ハ本年七月該部
分會決議運賃即現行ノ値据ヘ置ケモノトシ彼
此從來施行ノ標準ニ照レ敢テ不安ナキヨ



別表ノ題ヲ以テ案ル十月七日ヨリ實施スル
ヲニ決定ス

噸 積 運 賃 表

植 木	金 貳 圓 五 拾 錢	吉 田	金 貳 圓 九 拾 錢
上 御 德	金 參 圓 四 拾 五 錢	下 御 德	金 參 圓 〇 五 錢
第 四 大 浦	金 參 圓 四 拾 五 錢	大 城	金 參 圓 四 拾 五 錢
黒 川	金 參 圓 五 拾 錢	小 竹	金 三 圓 六 拾 錢
庄 ノ 瀬	金 參 圓 九 拾 錢	伊 岐 須	金 四 圓
高 草	金 參 圓 九 拾 錢	石 井	金 四 圓 參 拾 五 錢
片 島	金 四 圓 拾 五 錢	飯 塚	金 四 圓 參 拾 五 錢
鶴 三 緒	金 五 圓 參 拾 五 錢	上 三 緒	金 五 圓 參 拾 五 錢
明 神	金 參 圓 五 拾 錢	赤 港 上	金 四 圓
赤 港 下	金 參 圓 九 拾 錢	金 剛	金 貳 圓 九 拾 錢
馬 堀 山	金 貳 圓 九 拾 錢	大 辻	金 貳 圓 六 拾 錢
鎌 倉	金 貳 圓 九 拾 錢	第 一 大 隈	金 貳 圓 六 拾 錢
第 二 新 手	金 貳 圓 四 拾 五 錢	富 江	金 貳 圓 七 拾 錢
名 前	金 貳 圓 七 拾 錢	黒 川	金 貳 圓 八 拾 錢
外 郎	金 貳 圓 四 拾 五 錢	肥 春	金 貳 圓 貳 拾 五 錢
苗 代	金 貳 圓 貳 拾 五 錢	吉 田	金 貳 圓 貳 拾 五 錢
頭 素	金 貳 圓 貳 拾 五 錢		

運賃右之通り確定シ來ル廿八年十月

筑豊礦業組合直方支部

実部組合

發第二八六号

拜啓陳者左之事件。付御相談申上度來廿八日臨時總會
常議員會開會候間全日正午十二時迄。當可或濱岸屋。御
來會相成度此段及御通知候也

一續業條例改正運動ノ件

本件ハ去四月廿三日ノ通常總會ニ於テ當組合ノ素志ヲ
ル現行續業條例改正運動ヲ繼續スル目的ヲ以テ該運動
費支出方ヲ議決セシ處本年議會中既ニ近クキタルヲ以
テ該運動ニ關スル諸般ノ事ヲ議スルコト

一本年度上半期當組合經費收支決算報告ノ件

一門司町特別稅中或運動報告之件

明治廿八年十月廿一日

筑豊礦業組合事務所



殿

明治廿八年十月廿八日臨時總會決議錄

出席員

鹽長	安	道	仁	造
忠隈坑	杉	清	義	三
金田坑	廣	井	吉	吾
藤棚坑	長	谷	川	芳之助
古川半隈坑	谷	口	典	四郎
堀德坑	佐々木	淵	太	郎
西山坑主代	須藤	孫	三	郎
弓一大隈坑	伊木	豐	太	郎
名前坑	奥山	本	太	郎
白井坑	小西	善	太	郎
大城坑	廣	取	甚	橋

齡田坑	大	木	良	直
大辻坑	小	野	基	一
赤池坑	安	川	敬	一
許楚馬全代	山	本	周	太
	郎			

一 本日午後二時開會安達總長ヨリ本年度上半年期本組合收支決算及門町町費回數施行ニ付全町ト全町石炭商トノ間ニ執ラシメ申裁運動ノ成行ヲ報告セラルタル后左之各件ヲ決議ス

一 明治廿五年炭若松炭港會社補助費未納金百拾四圓六厘ヲ欠損トスル件

本會ハ種々ノ事情ヨリ四ヶ年ノ久シキニ亙リ事務員ハ百万手ヲ盡スモ到底徵收ノ見込ナキニ付欠損ト爲スコトニ決ス

一 明治廿六年度若松築港會社補助費返付殘金參百貳圓拾錢四厘ヲ基本財産ト爲ス件

本件ハ廿五年度築港會社補助費トシテ徵收シタル金員不足スルニ付更ニ廿六年度該補助費トシテ徵收シタルモノハ前年度補助費ト同性質ノモノナルヲ以テ之ヲ基本財産ト爲シ銀行ニ預ケ置タコトハ決ス

一 明治廿五廿六年度未納金參百參拾六圓七拾四錢貳厘割違未納金ト爲ス件

本件ハ廿五廿六年度通常費江川費鑛石費田川費ノ現在未納金ノ合計ニシテ納付者行先不分明又ハ廢業シ或ハ違戻先ノ不明ヨリ事務員數度出張レ取調ニ從事スルモ急ニ收入ノ見込相立タズ帳簿上ノ不整頓甚シキヲ以テ更ニ別途未納金ノ科目ヲ設ケ他日收入スルトヤハ之ヲ

總收入トシテ以テ帳簿上整理スルコトニ決ス

一 常議員安川敬一郎筒井省吾ノ兩氏滿期ノ處再撰シ長谷川芳之助氏ヲ新ニ常議員ニ推撰スル件

本件ハ安川筒井ノ兩氏ハ去ル廿六年十一月ノ常撰ニ付本月ハ正ニ滿ニケ年ニ達シ年限滿期ナルヲ以テ之ヲ再撰スルコト而シテ本年七月十一日ノ臨時總會ニ於テ田川授辰社ヨリ常議員壹名推撰ノ事ヲ決議シタルハ該社ハ之ヲ辭シタルヲ以テ藤澤坑主長谷川芳之助氏ヲ推撰スルコトニ決ス

一 鑛業條例改正運動委員及九州實業團體交渉委員撰舉ノ件

本件ハ右兩委員トシテ左ノ諸氏ヲ推撰シ第九議會ニ對スル鑛業條例改正運動一切ノ事及來廿九年前田正名君

末

縣ノ節迄ニ九洲石炭鑛業者団体ニ對スル總テノ交渉ヲ
托スルコトニ決ス

安達仁造 大木真重 杉清三

安川敬一郎 曾井省吾 稻垣徹之進

長谷川芳之助 後藤健作 城野琢磨

許斐鳳介



明治廿八年十月廿八日總會ノ原水運部決議錄

一 堀川筋修繕工事ニ付閉儀日數短縮方之件

本項ハ本月十一日常議員會ニ於テ決議ノ次第モ有之タ

ル處更ニ日數二十五日ヲ期シ成功通本ノ返ヒニ至ルニ

於テ先決議ノ金額ヲ工事補助トシテ支出スルヲニ決ス

一 堀川部分會ノ評決申請ニ係ル今回堀川閉儀ニ際シ堆積

ノ土砂澄濁ノ爲メ金八拾圓支出方之件

本項ハ堀川部分會ノ決議ヲ是認シ支出スルヲニ決ス

一 堀川葛字山ノ岸橋下修繕費支出ノ件

本項ハ閉儀中緊急必用工事ニ付設計金額參拾九圓貳拾

八錢八厘以內ヲ以テ修繕スルヲニ決ス

一 江川筋江川村字藝住橋曳道修繕ノ件

本項モ事實無己モノニ付設計金貳拾八圓八拾參錢以內

ヲ以テ修繕ヲ爲スルニ決ス

一 壽命唐戸口ニ諸願處査配置ノ件

本項ハ原案ノ通り必要ヲ認メ配置ノ諸願ヲ爲スルニ決

ス

一 中間唐戸番人エ季當金増給ノ件

本項ハ討論ノ末一時懸勞トシテ金圓^拾贈與スルヲニ決ス

一 木屋ノ漏紙出所ノ出張所設置ノ件

本項ハ壽命唐戸口ニ出張所ヲ設テ信家料一ヶ月金壹

圓五拾錢ヲ支出スルコトニ決ス





歸運賃之義ニ付水運部總會開設請求之
坑所不少然ニ付來ニ二十三日近方町字
段町喜妻屋ニ於テ水運部臨時總會相問
候條同日正午十二時迄ニ御參集相成度
此段及御照會候也

明治廿八年十一月十九日

筑豊礦業組合直方支部



體運賃ノ件ニ關スル本日ノ水運部總會出席長規定ノ人員ニ
充テスシテ開會ニ至ラス候處出席員ノ意見ニ俟レハ體運賃
ハ現行額ヨリ五拾五錢宛直下レ可然トノニ有之候條御意
存無之候ハマ案ニ十二月一日ヨリ右ノ額直下御實施ノニ
致度候間御意存ノ有無來ル廿九日迄御相成度此段及御照
會候處

遂テ本文期日迄何等御報無之節ハ御意存ナクモト見做
候條此段申渡候也

明治廿八年
十一月廿三日
筑豊礦業組合直方支部

辰川郡川内郷運賃表

大辻坑	金貳圓五拾錢
第一大隈坑	金貳圓五拾錢
第二新手機	金貳圓參拾五錢
外層坑	金貳圓參拾五錢
名前坑	金貳圓六拾錢
黒川坑	金貳圓六拾五錢
高江坑	金貳圓六拾錢
新川坑	金貳圓參拾錢
吉田坑	金貳圓貳拾五錢
苗代坑	金貳圓貳拾五錢

金剛坑	金貳圓七拾錢
永浦坑	金貳圓七拾錢
緑坑	金貳圓七拾錢

右堀川部分會ニテ決定來々入日ヨリ實施候事

明治廿八年十二月五日

筑豊礦業組合直方支部

明治廿八年十一月廿三日水運部總會議事録

出席人員

外厩坑	仰木弘道
大辻坑	山本慶市
吉田坑	松野久次郎
名前坑	中村勝三郎
黒川坑	田中謙十郎
高江坑	仙崎安雄
永留坑	島津安次郎
緑坑	藤津崎太郎
日堤坑	久野武保

赤池坑	近藤賢太郎
豊岡坑	梅崎忠吉
大城坑	永井喬

本日ノ議題タル船運賃ノ義ニ付將ニ議事ヲ開キ
シトスルニ際レ梅崎氏日船運賃ノ一ニ開レテハ
堀川方面ハ單ニ該部分會ニ於テ協議セラル、
ニ付テ決定ニテリ居ルト記憶セリ然レニ本日堀
川方面ヨリモ出席セラル、ハ如何ノ次第ナルヤ
トノ發言ニヨリ事蹟ヲ調査スルニ客年十二月十
日ノ水運部總會ニ於テ運賃ノ一ニ關レテハ堀川
方面ハ該部分會ニ於テ協議スル、ニ決定レアル

1 明瞭セリ依テ堀川方面ノ出席員ハ本會ニ列セ
サルニナリタリ
堀川方面出席員ノ退席ニ付テ會員僅ニ四名ニレ
テ本會ヲ開設レ得ヘカヲナルヲ以テ單ニ議題ニ
對スル意見ヲ同ヒ其意見ニ基キ關係名坑ノ意見
ヲ同ヒ議題ノ措置ヲ爲スニ協議レタリ
但意見ハ五拾錢下ヲ説ト六拾錢下ヲ説ト二様
ニアリレ處結局五拾五錢宛直下可然ニ一
レタリ

本川筋歸運賃表

植木	金貳圓	古田	金貳圓四拾錢
上御總	金貳圓九拾五錢	下御總	金貳圓五拾五錢
第二大浦	金貳圓九拾五錢	大坂	金貳圓九拾五錢
黒川	金參圓	小竹	金參圓拾錢
庄ノ瀬	金參圓四拾錢	伊岐須	金參圓五拾錢
高嶺	金參圓四拾錢	石井	金參圓八拾五錢
片島	金參圓六拾五錢	飯塚	金參圓八拾五錢
鶴三緒	金四圓八拾五錢	上三緒	金四圓八拾五錢
明神	金參圓	赤津上	金參圓五拾錢
赤津下	金參圓四拾錢		

本川筋歸運賃ノ義去ル十一月三十日付ヲ以テ御照會ニ及ビ置候處各坑共異議無之ニ付本表ノ通り改正シ來ル十日ヨリ實施相成度事

明治三十八年三月五日

筑豊豆鑛業組合直方支部



明治廿八年十二月 日臨時總會決議
出席員

勝野坑	安達仁造
大辻坑	稻垣徹之進
大ノ浦坑	後藤健作
日燒坑	城野孫三郎
忠隈坑	杉清
高越坑	松本健次郎
瑞穂坑	佐々木加太郎
吉田坑	沼田信
木洞坑	許斐應助
西川笹坑主代理	須藤孫三郎

一 門司特別稅條例撤回運動ニ關スル件

本件ハ門司石炭組合ト相提攜シテ該條例撤回運動ヲ實行シ該運動費トシテ案廿九年一月ヨリ四月迄出炭壹萬斤ニ付金壹錢宛徴収スルヲニ決ス

但シ該運動費并ニ其費用支出ノヲハ礦業條例改正運動委員ニ一任スルヲ

一 礦業法案修正ニ關スル件

本件ハ上京委員上京後ノ都合ニヨリ多少ノ修正ヲ爲スコトヲ該委員ニ任カスルコトニ決ス

右

各坑主御中

明治廿八年十二月六日

筑豊石炭礦業組合事務所



昭和十八年度下等學
筑豊石炭鑛業組合収支決算報告書

明治廿七年度下半季

筑豊石炭鑛業組合収支決算報告書

目次

一 通 常 費	壹 五 丁
一 江 川 渡 課 費	八 丁
一 上 京 費	一 丁
一 事 務 所 新 築 費	十 三 丁
一 新 築 保 存 費	十 五 丁
一 水 運 費	廿 一 丁
一 準 備 費	廿 三 丁
一 堀 石 費	廿 六 丁
一 田 川 費	廿 八 丁
一 堀 川 費	廿 八 丁

一基本財產費
一新港口補助費

廿九丁
三十丁

明治廿七年自十月廿八年至三月以決算報告書

一金壹萬參千五百九拾八圓五拾壹錢參厘

請求書發付總高

一金壹萬貳千四百貳圓貳拾貳錢五厘

徵収金總高

一金千百九拾六圓貳拾八錢八厘

未徵収金總高

一金貳萬貳千六百參圓五拾九錢貳厘

収入金總高

內

金壹萬貳千四百貳圓貳拾貳錢五厘

課金徵収高

金六千六百貳拾貳圓五拾六錢九厘

前年度繰越現在金

金鑒千五百七拾八圓七拾九錢八厘

一、金壹萬貳千五百零拾五圓七拾六錢貳厘

內

金九千八百六拾五圓六拾參錢參厘

金貳千六百七拾圓拾貳錢九厘

一金壹萬六拾七圓八拾參錢

備考

各項目収支決算明細書左ノ如ク

總量適合折半，及與現金並
三、債務全入高及準備金，
四、利用增利高。

仕拂金總高

仕拂精算高

款
一
保
携
高
不
能
能

差引現在金總高

自明治廿七年十月
至明治廿八年三月
収支決算明細書

通 當 費

課金請求ノ部

一金千四百壹圓五拾五錢八厘

内 譯

請 求 高

金八拾六圓八拾五錢九厘

金四拾九圓七拾四錢壹厘

金千貳百六拾四圓九拾五錢八厘

内 金百壹圓四拾●參錢五厘
金千百六拾三圓五拾貳錢參厘

前々季分
五年十一月以前・銀五ノ分

前々季分
五年十二月一日以前・銀五ノ分

前々季分
五年十二月一日以前・銀五ノ分

前々季分
五年十二月一日以前・銀五ノ分

前々季分
五年十二月一日以前・銀五ノ分

備 考



但廿七年九月三十日前々季現在未徴収金繰越高八拾六圓七拾九錢九厘ニ對シ金六錢ヲ増ス前中季繰越高四拾九圓七拾四錢四厘ニ對シ參厘ノ減額アルハ九月後ヨリ遞戻量數ニ違算ノ處發見セシヲ以テ訂正増減シタルニ依ル

徴収金ノ部

一金千貳百六拾九圓六拾九錢

内 譯

金拾九圓拾九錢八厘

徴収金ノ部

廿七年九月三十日現在未徴収金繰越高八拾

前々季分

金四拾五圓壹錢九厘
金千貳百五圓四拾七錢參厘

前々季分
當季分

差引未徴収金ノ部

一金百參拾壹圓八拾六錢八厘

内 譯

金六拾七圓六拾六錢壹厘
金四圓七拾貳錢貳厘
金五拾九圓四拾八錢五厘

未徴収金
前々季分
當季分

收入金ノ部

一金千九百九拾壹圓拾貳錢貳厘 收入 高

内 譯

金千貳百六拾九圓六拾九錢 課金徵取高

金壹圓五拾八錢八厘 雜收入金

金參拾五圓六拾九錢貳厘 廿七年度前半學提議現在全

金六百四拾九圓六拾五錢貳厘 歸換及假持全戻入高

金參拾四圓五拾錢 波用増額高

作年總金ノ部

支出金ノ部

一金千六百六拾圓九拾壹錢五厘 仕 拂 高

内 譯

金千四拾壹圓九拾六錢七厘 本部費精算高

金四百四拾八圓六拾六錢五厘 役員給料

金百五拾七圓 慰勞金

金參拾四圓五拾錢 賞與金

金五拾壹圓 信家料

金五拾四圓六錢五厘 郵便電信料

金百拾七圓貳拾參錢 旅費

金參拾八圓五拾參錢八厘 印刷及諸報告費

金九圓五拾五錢 備品費



金七拾參圓拾參錢壹厘	消耗品費
金參拾七圓六拾八錢	會議並交際費
金拾貳錢五厘	役場上納金
金四錢	兩換千數料
金貳圓八拾四錢參厘	諸雜費
金拾八圓拾錢	留直賄料
金參百貳圓拾錢四厘	一時運用借入當却高
金貳百八拾六圓八拾四錢四厘	總括今未精算高
金五圓	當時中村社協志聯合へ貸與 金五圓現金
	一時預り金未返戻ノ分

金百圓

金參拾圓

差引現在金參百參拾圓貳拾錢七厘

假拂金未精算高

廿七年前半へ於テ事務所借
入金トシテ小畑信雄へ貸與
ノ分



江川漫筆費

課金請求ノ部

一金百參拾四圓四拾參錢壹厘

內 譯

金壹圓八拾七錢四厘

金百參拾貳圓五拾五錢七厘

內 金百貳拾八圓八拾四錢壹厘
金參圓七拾壹錢六厘

請求 高

前々季分

廿五年十一月以前二厘八分

當季分

廿七年四月一日以後二厘八分

廿七年四月一日以前二厘八分

廿七年七月一日以後一厘五分

徴収金ノ部

一金六拾貳圓五拾七錢八厘

内譯

金六拾貳圓五拾七錢八厘

徴収高
廿七年九月三十日以降收入ノ分
當季分

差引未徴収ノ部

一金七拾壹圓八拾五錢參厘

内譯

金壹圓八拾七錢四厘

未徴収高
前々季分

金六拾九圓九拾七錢九厘

當季分

収入金ノ部

一金千貳百拾八圓八拾五錢壹厘

内譯

金六拾貳圓五拾七錢八厘

金貳拾壹圓貳拾錢九厘

金千百參拾五圓六錢四厘

課金徴収高
便拂戻入高
廿七年度前半繰越現在金

支出金ノ部

一金九百九圓九拾四錢五厘

仕 拂 高

内 譯

金五拾九圓九拾四錢五厘

精 算 高

内

金貳拾四圓貳拾壹錢

旅 費

金五圓四拾參錢六厘

棧橋修繕費

金拾五圓參拾九錢

臨時支給

金拾四圓九拾錢九厘

諸 費

金八百五拾圓

假拂金未精算ノ分

内

金七百圓

金百五拾圓

差引現在金參百八圓九拾錢六厘

諸費部宜場へ寄付金トシテ
假拂ノ分
江川 淺 津 費

上京費

課金課金ノ部

一金八拾四圓四錢壹厘

内譯

請求高

金八拾四圓四錢壹厘

備考

當季分
廿七年九月以前之算入分

但廿七年九月間日本年度上半年決算差引未徴収金前
季分鐵區制金百七拾壹圓參拾壹錢八厘追加制金參拾
六圓五拾貳錢八厘合計金貳百七圓八拾四錢六厘繰越
七十九年八月廿七年十二月十七日臨時總會ノ決議ニ基キ

欠損レタルニ由ル

徴収金ノ部

一金貳拾九圓貳拾七錢八厘

徴収高

内譯

金貳拾九圓貳拾七錢八厘

當季分

内 金六圓參拾貳錢

金貳拾貳圓九拾五錢八厘

備考

但當季分課金收入金内譯ヲ要セシハ本年度上半季決

當局ニ至リ廿七年八月八日收入金ノ内金貳拾貳圓九拾五錢八厘徴収係誤テ水運費ニ混入報告アリタルヲ發見セシ爲メ十月十九日終日更正訂正セタルニ由ル

差引未徴収ノ部

一金五拾四圓七拾六錢參厘

未徴収高

内譯

金五拾四圓七拾六錢參厘

當季分

收入金ノ部

一金貳千百五拾六圓八拾七錢參厘

收入高

内譯

金貳拾九圓貳拾七錢八厘

金千五拾圓

金千七拾七圓五拾九錢五厘

課金還取高

假拂金戻入高

廿七年實額未事除額及金

支出金ノ部

一金貳千百拾壹圓參拾壹錢

仕拂高

内譯

金八百六拾壹圓參拾壹錢

内

金百參拾七圓參拾壹錢

金七拾貳圓

金參拾四圓八拾八錢

金參拾六錢

金八圓四拾四錢

金三圓七拾錢

金百拾圓五拾九錢

金參拾五圓

金四百五拾九圓參錢

精算高

旅費

機密費

會議費

印刷及諸報告費

郵便電信料

爲換手數料

門司輸出取諸諸費

門司新報諸儀料

諸雜費

金千貳百五拾圓

假拂金未精算高

差引現在金四拾五圓五拾六錢三厘

事務所新築費

現金請求ノ部

一金七千拾四圓貳拾貳錢四厘

請求高

内譯

金九百拾壹圓六拾八錢參厘

廿七年九月三十日以前ノ算メノ分

金六千百貳圓五拾四錢壹厘

廿七年九月三十日降ノ算メノ分

徴収金ノ部

一金六千七百貳拾壹圓八拾壹錢貳厘

徴収高

内 譯

金六千七百貳拾壹圓八拾壹錢貳厘

當 季 分

差引未徵収金ノ部

一金貳百九拾貳圓四拾壹錢貳厘 未徵収高

内 譯

金貳百九拾貳圓四拾壹錢貳厘 當 季 分

収入金ノ部

一金九千六百四拾五圓九拾四錢九厘

収 入 高

内 譯

金六千七百貳拾壹圓八拾壹錢貳厘

課金徵収高

金貳千九百貳拾四圓拾參錢七厘

廿七年度前半季繰越現在金

支出ノ部

一金千七百參拾四圓

仕 拂 高

内 譯

金千六百八拾圓

敷地買上料

金四拾圓

全周旋手数料

金拾四圓

紙記印紙料

差引現在金七千九百拾壹圓九拾四錢九厘

新築保存費

課金請求ノ部

一金貳百拾七圓四拾五錢五厘

請求高

内譯

金貳百拾七圓四拾五錢五厘

當季分

徴収金ノ部

一金貳百七圓八拾六錢

徴収高

内譯

金貳百七圓八拾六錢

當季分

差引未徵収金ノ部

一金九圓五拾九錢五厘

未徵収高

内譯

金九圓五拾九錢五厘

當季分

収入金ノ部

一金貳百七圓八拾六錢

収入高

内譯

金貳百七圓八拾六錢

課金徵収高

差引現在金貳百七圓八拾六錢

水 運 費

設金請求ノ部

一金參千四百拾七圓參拾錢貳厘 請 求 高

內 譯

金參拾四圓參拾錢參厘

金參千參百人拾貳圓九拾九錢九厘

內 金貳百四拾四圓壹錢七厘
別金參千百參拾八圓九拾八錢貳厘

備考

但廿七年九月三十日將季未徵収高金參拾四圓參拾錢

前 季 分
廿七年三月三十一日以前ノ期スル分
當 季 分
廿七年四月一日以後未徵収ノ分
廿七年九月三十日以前ノ期スル分

廿七年九月二十日以後ノ期スル分

錢八厘ニ對シ金壹錢五厘ノ減額及當季分金貳百貳拾
 壹圓五錢九厘ニ對シ金貳拾貳圓九拾五錢八厘ノ增額
 ナ得ルハ上京費科目ニ於テ説明セシ理由ニ依リ訂正
 組換レタルコト也

徴収金ノ部

一金參千貳百四拾九圓五拾五錢壹厘

內 譯

金貳拾六圓參拾五錢五厘

金參千貳百貳拾參圓拾九錢六厘

徴収 高
 七七年九月三十日以後取入ノ分

前 季 分
 當 季 分

差引未徴収金ノ部

一金百六拾七圓七拾五錢壹厘

內 譯

金七圓九拾四錢八厘

金百五拾九圓八拾錢參厘

未徴収高

前 季 分
 當 季 分

取入金ノ部

一金六千五拾九圓四拾九錢參厘

取 入 高

内 譯

金參千貳百四拾九圓五拾五錢壹厘

課金徴取高

金千貳百五拾圓

糖業組合折半額

金四百九拾五圓八拾四錢九厘

飯拂金戻入高

金六拾六圓

流用増額高

金九百九拾八圓九錢參厘

但廿七年九月三十日繰越現在金千貳拾壹圓五錢壹厘

備考

但廿七年九月三十日繰越現在金千貳拾壹圓五錢壹厘
對シ金貳拾貳圓九拾五錢八厘ノ減額ヲ得ルハ誤ヲ
上京費記入報告アリタルヲ以テ訂正組織シタルニ依

支出金ノ部

一金五千七百六拾五圓貳拾六錢壹厘

仕 務 高

内

金五千六百八拾五圓六拾八錢壹厘

精 算 高

内 譯

金七百八拾五圓八拾四錢

支 部 費

内

金貳百四拾五圓

支部長給料

金六拾圓

定約船取歸入給

金四拾圓

赤池船割入給

金拾圓九錢參厘

小使給料

金貳拾五圓	實與金
金參拾六圓	慰勞金
金參拾五圓	借款料
金參拾五圓八拾參錢五厘	會議費
金五拾貳圓貳拾八錢四厘	印刷及諸報告費
金拾七圓貳拾五錢貳厘	備品費
金貳拾九圓貳拾四錢壹厘	消耗品費
金百七拾八圓四拾七錢	旅費
金拾五圓四拾八錢	郵便電信料
金六圓八錢五厘	飛脚貨
金貳百參拾四圓參拾參錢	吉田區公所費

丙

金百圓拾參圓五拾錢	役員給料
金拾壹圓五拾錢	賞與金
金七圓	備家料
金貳圓五拾壹錢五厘	備品費
金拾五圓九拾錢五厘	消耗品費
金四拾貳圓參拾五錢	旅費
金壹圓八拾壹錢	郵便電信料
金七拾錢	飛脚及入夫賃
金九圓五錢	宿直膳料
金百九拾壹圓貳拾壹錢九厘	拂川派出所費



内

金百參圓

金七圓五拾錢

金參圓五拾錢

金貳圓九拾錢

金六圓七拾七錢九厘

金拾七圓五拾四錢

金貳拾五錢

金四拾九圓七拾五錢

金四十四百七拾四圓貳拾九錢貳厘

内

役員給料

宣與金

宅地料

備品費

消耗品費

旅費

飛脚及人夫賃

拂用溫泊所移轉費

渡沙費

金貳百六拾九圓六拾八錢九厘

内

金貳百四圓八拾參錢八厘

金六拾四圓八拾五錢壹厘

金貳拾貳圓

金百貳拾七圓七拾八錢六厘

内

金七拾圓七拾四錢六厘

金八圓

金八圓七拾五錢

金參圓八拾錢

監督費

監督員給料

監督員手當

賞與金

調服巡査費

成績上納金

西川鑑別慰勞金

中間借家料

折尾宅地料

金拾九圓六拾參錢
金拾六圓八拾六錢

出張宿料
諸雜費

金五百拾九圓八拾貳錢五厘

運炭取給費

内

金百七拾四圓八拾參錢八厘

直方運炭取給人給

金五拾八圓

中間運炭取給人給

金四拾九圓

堀川督給取給人給

金九拾壹圓

荷船運炭取給人給

金七拾貳圓

野金座戸番手當

金拾七圓五拾錢

堀川運炭取給人手當

金拾七圓五拾錢

中間唐戸番取給人手當

金參拾圓八拾八錢七厘

諸雜費

金九圓拾錢

當金運炭取給所取給料

金貳千貳百參拾六圓五拾錢

渡沙夾給

金參百貳拾七圓貳拾五錢

臨時夫給

金百拾圓五拾錢

渡沙夫賃與金

金九拾四圓八拾八錢壹厘

運寄船費

金拾貳圓八拾八錢

機板費

金貳拾參圓拾錢

諸雜費

金貳拾五圓參拾七錢七厘

當金運炭取給所移轉費

金貳百貳拾參圓參錢七厘

堀川堰費

金參拾圓

ナニヲ島人給

三十二

金四百參拾六圓五拾八錢貳厘
金拾四圓八拾八錢五厘
臨時費

洗床工事費

金七拾九圓五拾八錢
便拂金未精算高

差引現在金貳百九拾四圓貳拾參錢貳厘

準備費

課金請求ノ部

一金五百九拾壹圓八錢參厘
請求高

内譯

金五百九拾壹圓八錢參厘
當季分

内金五百九拾壹圓九錢

金五百九拾九圓九拾九錢參厘

廿七年九月三十日以前ノ屬スル分
廿七年九月三十日以後ノ屬スル分

徴収金ノ部

一金五百六拾六圓拾錢壹厘

內譯

金五百六拾六圓拾錢壹厘

徵取高

辛七年九月三十日自庫收入ノ分

當季分

差引未徵取金ノ部

一金貳拾四圓九拾八錢貳厘

內譯

金貳拾四圓九拾八錢貳厘

未徵取高

當季分

取入金ノ部

一金八百九拾七圓四拾五錢八厘

內譯

金五百六拾六圓拾錢壹厘

金參百參拾壹圓參拾五錢七厘

取入高

課金徵取高

廿七年度前半季繰越現在金

支出金ノ部

一金百圓五拾錢

內譯

仕拂高

金百圓五拾錢

水運費へ流用

差引現在金七百九拾六圓九拾五錢八厘

煙石費

課金請求高

一金八拾八圓八拾錢九厘

内譯

請求高

金貳圓四拾四錢九厘

金五拾貳錢貳厘

金八拾五圓八拾參錢八厘

内 金貳圓七拾參錢

金八拾參圓拾錢八厘

備考

前々季分
廿五年十一月以前ノ屬スル分

前季分
廿六年三月三十一日以前ノ屬スル分

當季分
廿七年四月一日以後ノ屬スル分

廿七年九月三十日以前ノ屬スル分

廿七年九月三十日以後ノ屬スル分

但廿七年九月三十日繰越前々季分現在未徴収金貳圓
六拾四錢九厘ニ對シ貳拾錢及前季分五拾貳錢六厘ニ
對シ金四厘ノ減額アルハ上半季決算后ニ至リ課金請
求ノ際繰算誤謬ノ虞アリ廿八年三月廿九日訂正減額
セシメ依ル

徴収金ノ部

一金八拾五圓六拾貳錢六厘

徴収金ノ部
廿七年九月三十日繰越前々季分

内 譯

金貳拾五錢壹厘

前々季分

金拾六錢九厘

前々季分

金八拾五圓貳拾錢六厘

前々季分

差引未徴収金ノ部

一金參圓拾八錢參厘

未徴収金

内 譯

金貳圓拾九錢八厘

前々季分

金參拾五錢參厘

前々季分

金六拾參錢貳厘

前々季分

收入ノ部

一金百四拾五圓八拾五錢九厘

収入高

内譯

金八拾五圓六拾貳錢六厘

課金價収高

金六拾圓貳拾參錢參厘

廿七年度前半季引越現在金

支出金ノ部

一金百六圓貳拾參錢

仕拂高

内譯

金百六圓貳拾參錢

掘石部分會委員（交付ノ分

差引現在金參拾九圓六拾貳錢九厘